

発達障害のある女子大学生特有の課題解決に有効な 就労支援プログラムの開発

山下 京子 教授 (YAMASHITA, KYOKO 人間生活学部・幼児教育心理学科)

女性の生涯を見通したキャリア発達の観点から、
女性の社会的自立と社会参画の推進をめざす

山下研究室では、発達障害のある女子大生のキャリア発達に焦点を当てた、就労支援プログラムの開発に取り組んでいます。

就労支援プログラムの開発では、①発達障害学生の自己理解を促進させるシステムの開発、②発達障害学生の自己決定や意思決定を支援する方法の確立、及び③個々の発達障害学生の特性に応じた就労支援プログラムの在り方の検討を進めています。

発達障害者は自己と社会に対する多様な気づきや発見(自己理解)が困難であると考えられます。山下研究室では、こうした自己理解の促進を目的として、日常場面を想定した自己評価ツールを用いて、自分の得意なことと苦手なことを客観的に把握でき、代替策についても視覚的に理解することのできるシステムを開発する計画です。

既存の就労支援プログラムには、個人の特性に応じた変更可

能性が含まれていません。一方で、発達障害者の就労支援では、発達障害の特徴として個人差が大きいことが分かっています。発達障害者を対象とした就労支援の実施と成功には、変更可能性を十分に備えたプログラムの開発が重要かつ不可欠と考えられます。また、女性のキャリア

は男性に比べ
ライフイベントの影響を受けやすく、社会的自立と社会参画は男性よりも困難となっています。

現在の我が国では、若

者の非正規雇用や離職率の問題に加えて、少子高齢化対策の一環として、社会において女性が継続的に活躍することが期待されています。発達障害のある女子大生に特化した就労支援策として有効な新しいプログラムの開発は、こうした女性の自立と社会参画を支援する方策として、極めて有効と考えます。



受託研究のススメ

山下研究室では、企業の皆様とコラボした研究活動として、例えば次のようなご要望にお応えすることができます。まずはご相談ください。

✿ ✿ ✿ ✿ ✿

「発達障害のある高校生の女子を対象とした、就学支援プログラムを開発したい。」

「企業で働く発達障害者が自立して就労し続けることができるような支援プログラムの開発に参加してほしい。」

「発達障害者を採用する為の受け皿として、現在の職場にどのような体制を整備すれば良いのか、専門的な立場から提案してほしい。」

発達障害学生の自己理解を促進する新システムを構築。「セルフ・チェック」機能を高めて多様なデータを集積・解析し、有効性の高い支援を提供したい。